

# 西条酒蔵通りの町並み



# 歴史

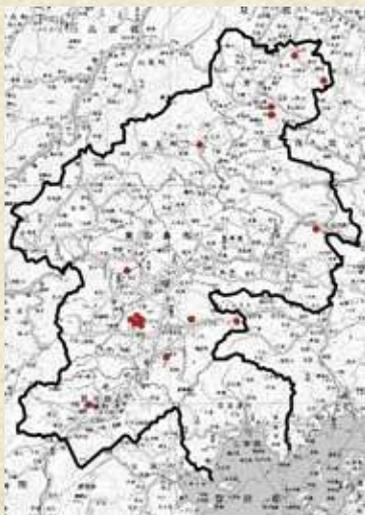
西条盆地に人々が生活し始めたのは、約2万3千年前の旧石器時代とされています。縄文時代までは見つかる遺跡も数が少ないですが、弥生時代に入ると西条・高屋地区を中心に爆発的に遺跡の数が増え、人口が増加したことが推測できます。奈良・平安時代に再び遺跡数は減少しますが、中世以降非常に多くの遺跡が確認されるようになるのです。

## ○「西条」の誕生

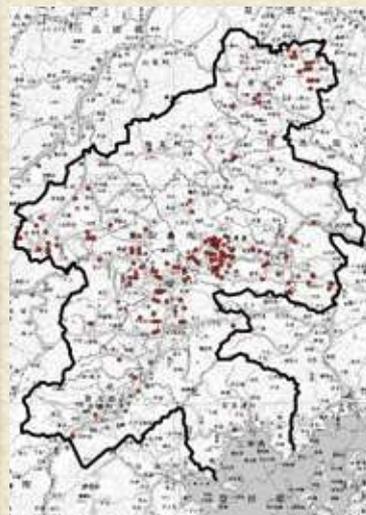
「西条」という地名が文献に現れるのは、平安時代後期のことです。このころの西条盆地は、東側の東条と西側の西条に分かれていました。東条と西条の境は、西条岡町と西条西本町の間を流れる半尾川はんのおがわとされています。「西条東」の地名は、西条の東端に位置したことからつけられたものです。

東条と西条はもともと一つのまとまった地域でしたから、南北朝時代には合わせて「東西条」と呼ばれるようになります。戦国時代に入ると、東西条から「東」の文字が抜け、盆地全体が「西条」と呼ばれるようになるのです。

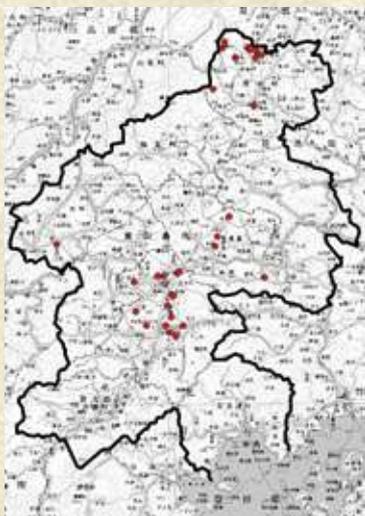
西条酒蔵地区は、古代中世には東条に属していましたが、江戸時代には西条盆地の中心となるのです。



縄文時代の遺跡分布



弥生時代の遺跡分布



奈良・平安時代の遺跡分布



中世の遺跡分布



「賀茂郡絵図」(部分)に一部加筆

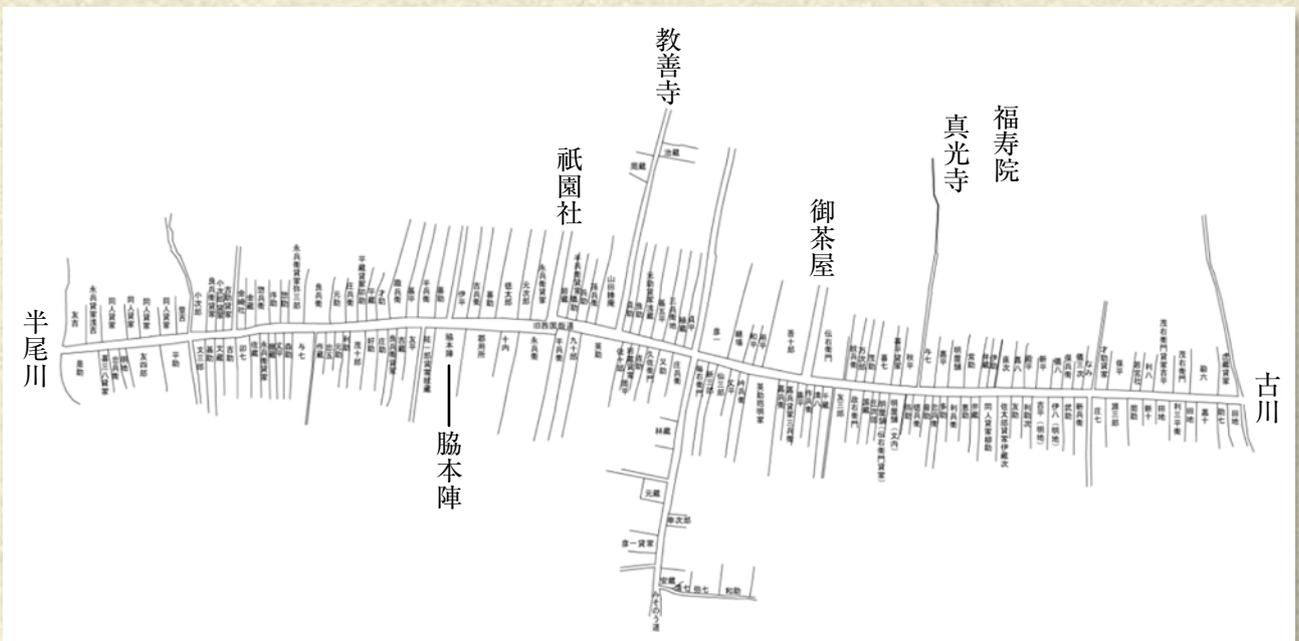
## 江戸時代の酒蔵通り

江戸時代の酒蔵通りは、<sup>よっかいちじろうまるむら</sup> 四日市次郎丸村に含まれ、<sup>よっかいちじゅく</sup> 四日市宿と呼ばれる<sup>さいごくかいどう</sup> 西国街道の<sup>しゅくばまち</sup> 宿場町として栄えました。当時の街道絵図には、西国街道に沿って家並みが続き、町並みの北側に社寺が点在する様子が描かれています。



賀茂郡往還絵図（呉市入船山記念館寄託宮尾家資料）

寛永10(1633)年の幕府巡見使の巡見を契機に、町並みの北側ほぼ中央に<sup>ひろしまはん</sup> 広島藩によって<sup>おちゃや</sup> 御茶屋が置かれ、<sup>ほんじん</sup> 本陣として幕末まで使用されました。御茶屋の跡地は、<sup>かもつるしゅぞう</sup> 賀茂鶴酒造の本社となっており、現在も石垣の一部が残っています。



江戸時代後期の宅地間口復元図

町場は、<sup>たんざくがた</sup> 短冊形の細長い地割に<sup>ちわり</sup> 区画され、家々は軒を<sup>のき</sup> 接して建ち並んでいました。江戸時代の四日市宿は、数軒の<sup>かわらぶき</sup> 瓦葺の大型町家のほかは、妻入り（正面に屋根の三角が見える）の<sup>つまい</sup> 茅葺の町家が大部分を占めていたと推測されています。また、町家の背後には農地が広がっており、町場と農村の二つの顔を持っていたと考えられています。

古写真には、市重要文化財旧石井家住宅の背後に農地が広がっていた様子が写されています。土地の区画(地割)からも、短冊形の区画の背後に大きさのまちまちな土地があったことがわかります。

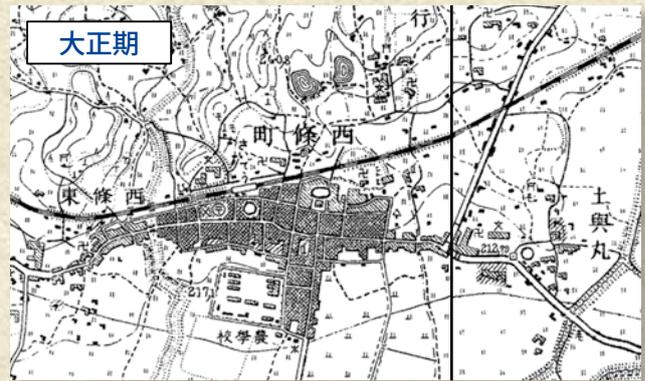


宅地の南側に広がる農地（旧石井家住宅古写真）



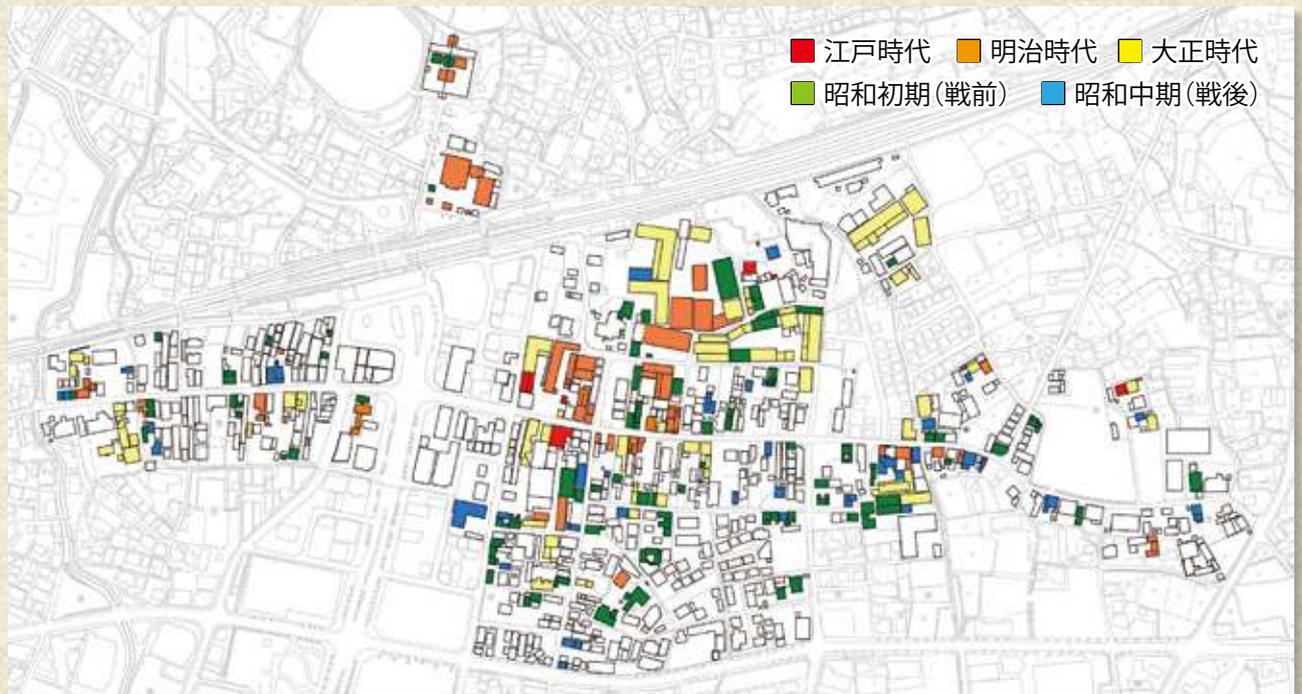
明治中期から昭和初期・中期頃の地割変遷図

## 町並みの変遷



この3枚の地図は、明治前期、明治後期、大正期の西条酒蔵地区を描いたものです。徐々に市街地が拡大していく様子がよく分かります。

特に明治27年の山陽鉄道(現、JR西日本山陽本線)開通によって、西条駅が造られると、酒造業が盛んとなり、町場の背後の農地が宅地として開発されていく様子が見えてきます。



現在の町並みは、江戸時代から現代までの建物によって形作られています。上の図は、江戸・明治・大正・昭和初期・昭和中期(戦後からおおよそ50年前まで)の時代ごとに色分けしたものです。江戸時代の宿場町から発展した西条酒蔵通り地区ですが、この図からは、江戸時代の町家が非常に少ないことがわかります。酒造を中心とした醸造町へと変わっていく過程で、町の発展に合わせて古い町家が建て替えられていったものと考えられます。

酒蔵通りの伝統的な町並みは、明治以降、酒造業が発展したその過程をよく表しているといえるのです。

# 酒蔵通りの建造物

西条酒蔵通りの伝統的建造物には大きく分けて、町家建築、酒蔵建築、社寺建築があります。それぞれの特徴を見ていきましょう。

## 町家の特徴

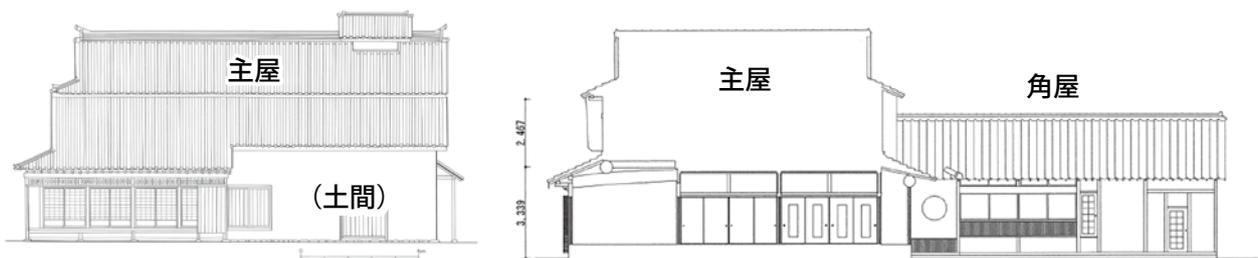
西条酒蔵通りの町家は、江戸時代の宿場町時代にその原型が形作られました。しかし、現在では酒蔵通りに残る江戸時代の町家は、<sup>はくぼたんしゅぞうてんぼうぐら</sup>白牡丹酒造天保蔵の<sup>おもや</sup>主屋1棟になってしまいました。現在、西条町下見に移築されている市重要文化財旧石井家住宅は、元西条岡町にあり、江戸時代の大型町家の様子を知る貴重な文化財です。

明治以降の町家には、街路沿いに主屋を建て、背後に<sup>つのや</sup>角屋と呼ばれる台所を突き出し、その奥に<sup>どぞう</sup>土蔵や<sup>はな</sup>離れを置いたものが見られます。



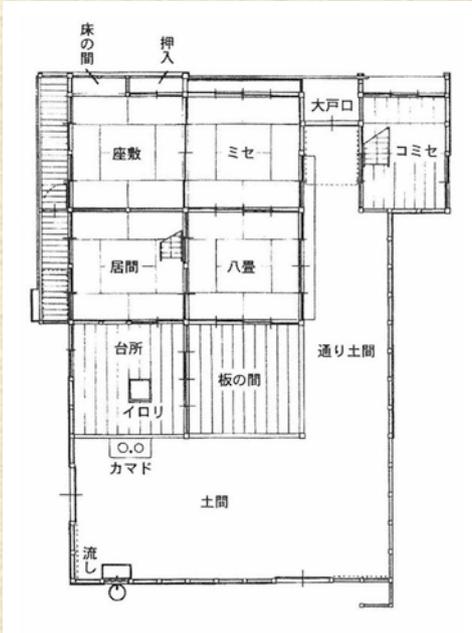
市指定重要文化財 旧石井家住宅

2階建ですが、2階は物置として使われていました。正面から見た姿が兜のように見えることから、冑造りと呼ばれます。

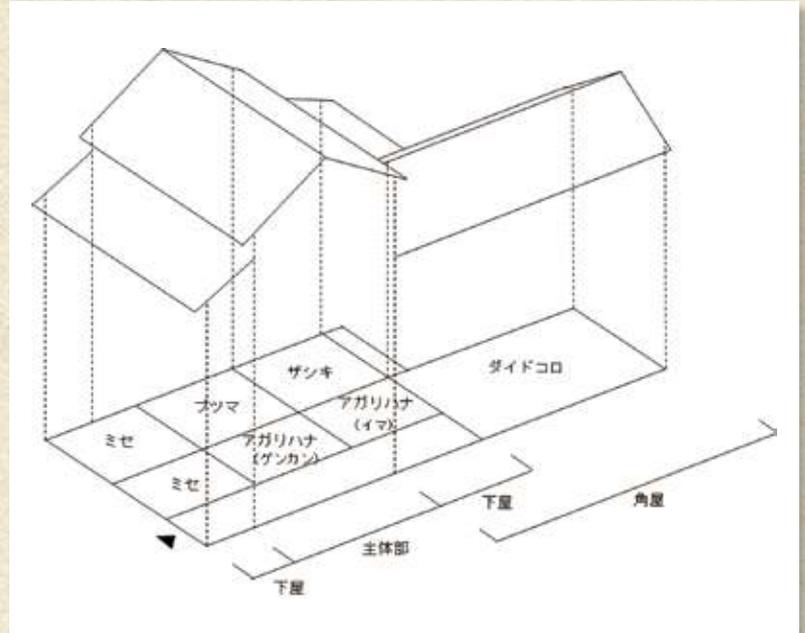


旧石井家住宅(左)と岡田家住宅(右)の立面図

江戸時代の大型町家が、<sup>ざしき</sup>座敷を<sup>がいろぞ</sup>街路沿いに配置し、裏側の<sup>どま</sup>土間に台所を置いていたのに対し、明治以降の町屋は建物背後の中庭等に面して座敷をつくったことから、台所を角屋として建物の背後に突き出したものと考えられています。



旧石井家住宅平面



明治以降の町家の概念図

主屋の2階は、明治後期頃まではツシ二階建と呼ばれ居室は設けられていませんでしたが、それ以降、2階を居室として使用するようになります。昭和初期には2階の全面を開口とした開放的な構えも見られるようになります。下屋と呼ばれる主体部にさしかけてつくった屋根の下の空間で居室を広げることも行われていました。

屋根は、<sup>かやぶき</sup>茅葺から江戸時代末期に普及し始めた<sup>あかがわら</sup>赤瓦へと急速に変わっていきました。これには、<sup>れんか</sup>密集した町場では火災の危険が大きいことと、瓦を廉価で購入できるようになったことが理由と考えられます。

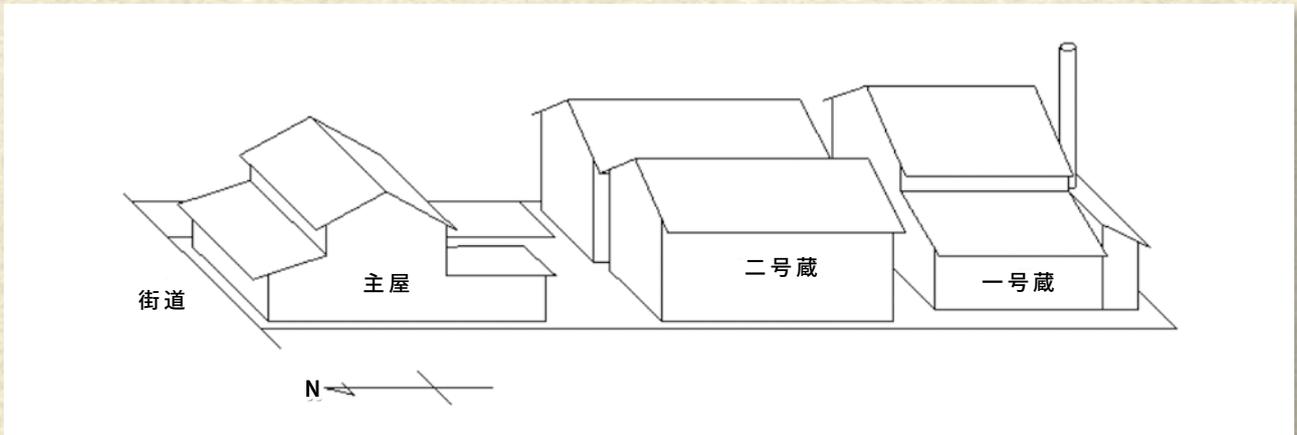


赤瓦の優勢な家並み(本町・朝日町地区)

## 酒蔵の特徴

酒蔵の建築には酒造蔵のほか、<sup>こめぐら</sup>米蔵や<sup>せいまいしょ</sup>精米所、<sup>びんづめじょう</sup>瓶詰場などが現存します。江戸時代から明治時代中期頃までの酒蔵は、旧西国街道に面した主屋の背後に、棟を南北に向けた酒造蔵を建てる<sup>むね</sup>ことが基本でした。

酒造蔵は主屋の背後にあるため、街道から直接見ることはできませんでした。



街道沿いの酒造蔵の配置（山陽鶴酒造）

造られた酒は、背後の酒造蔵から、<sup>にくるま</sup>荷車などに載せられ、主屋を<sup>むね</sup>通って表のトラックに積み替えられて出荷されていました。



山陽鶴酒造の前に止められたトラック

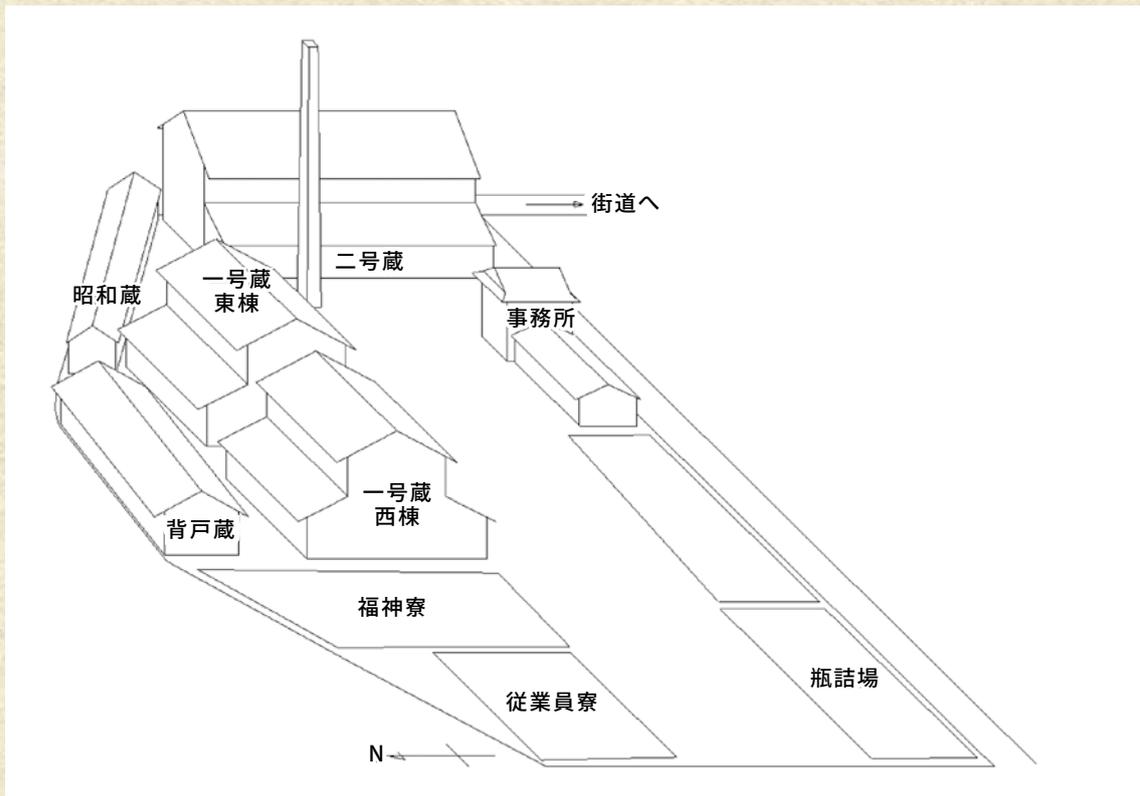


西條鶴醸造の通り土間

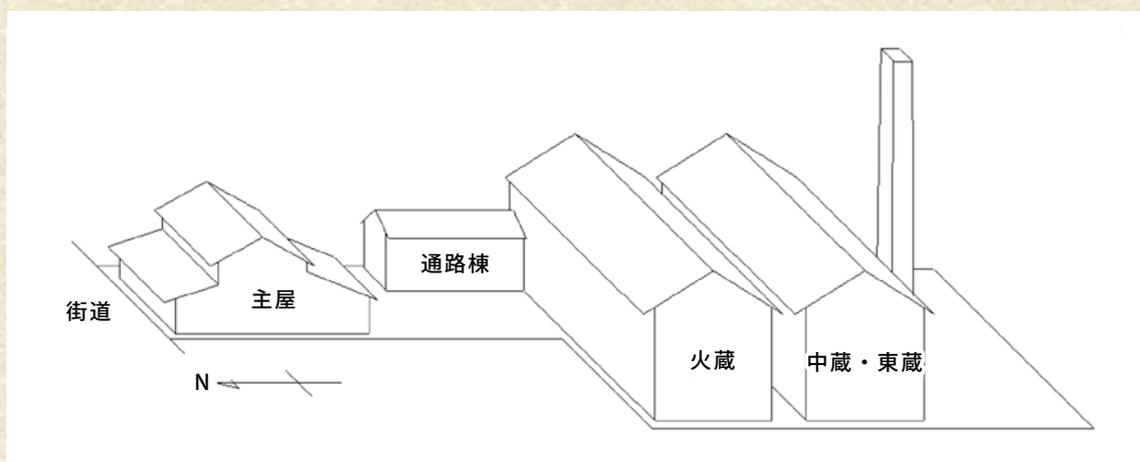
白牡丹酒造や賀茂泉酒造、西條鶴醸造、山陽鶴酒造の主屋には、荷車が通るために補強された通路を見ることができます。また、亀齢酒造の旧主屋は入口をふさいでいますが、室内には通路の跡が残り、かつては同じように主屋を<sup>むね</sup>通って出荷されていた様子をうかがうことができます。

明治時代中期以降、酒蔵は増産のために大規模化が図られます。町並みの北側の農地を合筆した不整形な敷地に東西方向の大規模な酒造蔵が建てられました。これは当時酒造りの本場だった兵庫県の灘の酒蔵をまねて建てられた可能性が考えられています。灘の酒蔵は一冬に1,000石の米を酒に仕込むことができたことから、千石蔵と呼ばれていましたが、西条の酒蔵が目指したのは、二千石蔵でした。

この大規模な酒蔵は、主屋がなく、事務所で管理され、敷地にトラックが直接乗り入れることができるなど、大幅な効率化が図られたのです。



町並みの背後につくられた大規模な酒蔵（福美人酒造）  
不整形で広大な敷地に酒造蔵や事務所、瓶詰場、従業員寮など必要な施設が揃えられていました。



街道沿いの酒蔵と後背地の酒蔵が一つになった酒蔵（賀茂泉酒造）  
中には、街道沿いの敷地の背後に合筆した広い敷地の酒蔵を合わせた形の酒蔵もあります。



白牡丹酒造天保蔵主屋の大戸と通り土間



亀齢酒造一号蔵の釜場と煙突



西條鶴醸造主屋



西條鶴醸造仕入蔵北面



福美人酒造恵比寿蔵遠景（平成 29 年頃）



賀茂鶴酒造本社事務所



旧広島県醸造試験場精米所（現、賀茂泉酒造藍泉館）



賀茂鶴酒造米蔵

## 寺社建築の特徴

西条酒蔵地区の寺社は、西条駅の北側に位置する教善寺、御建神社と賀茂鶴酒造の東に位置する円通寺があります。円通寺の西、現在の賀茂鶴酒造8号蔵の位置には、現在西条東に移っている真光寺がありました。町並みの北側は宗教的な空間だったといえます。



教善寺

教善寺は、元、現在位置のやや南東、山陽本線の線路が通っている辺りにありました。山陽鉄道の開通に合わせて明治27年、現在位置に移転しています。現在の本堂はその時建てられたもので、浄土真宗の大規模な本堂らしく、組物を多用し豪華な彫刻を用いるなど、明治時代の豪華絢爛な本堂の一例として貴重な建物です。



御建神社

御建神社は、元、祇園社といい、現在の西条駅のロータリー付近にありました。明治43(1910)年、周辺の小社<sup>しょうしゃ</sup>を合祀して現在地に移されましたが、大正3(1914)年に火災で焼失し、大正7(1918)年に再建されました。

# 酒蔵通りの景観

## 酒蔵の煙突

西条酒蔵通りの景観を特徴づけるものに、各酒蔵の煙突があります。煙突には平面形が方形のものや円形のものがあり、また、材質ではレンガ造りのものとコンクリート造りのものがあります。

明治後期頃から方形でレンガ造りの煙突が造られ始め、昭和初期になると円形でコンクリート造りのものが見られるようになります。このことから、煉瓦で造られたものがコンクリートで造られたものよりも古く、方形のものが円形のものより古い時代に造られていたことがわかります。

所在地	建設年代	形状	構造	横幅(直径)	高さ	備考
賀茂鶴酒造二号蔵	明治後期	方形	煉瓦造	1700mm	19.5m	登録有形文化財
賀茂鶴酒造三号蔵	大正前期	方形	煉瓦造	1880mm	23.4m	登録有形文化財
賀茂鶴酒造四号蔵	大正後期	方形	煉瓦造	1880mm	22.0m	登録有形文化財
賀茂鶴酒造八号蔵	大正期	方形	煉瓦造	1790mm	16.9m	登録有形文化財
福美人酒造恵比寿蔵	大正期	方形	煉瓦造	2000mm	24.1m	登録有形文化財
亀齢酒造一号蔵	大正期	方形	煉瓦造	1960mm	23.7m	登録有形文化財
亀齢酒造五号蔵	昭和初期	円形	鉄筋コンクリート造	1130mm	15.0m	
亀齢酒造七号蔵	昭和初期	円形	煉瓦造	2027mm	19.5m	登録有形文化財
西條鶴醸造	大正期	方形	煉瓦造	1690mm	19.0m	登録有形文化財
白牡丹酒造延宝蔵	大正期	方形	煉瓦造	1940mm	25.1m	登録有形文化財
白牡丹酒造天保蔵	明治後期	方形	煉瓦造	1600mm	21.1m	登録有形文化財
賀茂泉酒造中蔵・東蔵	大正期	方形	煉瓦造	1570mm	17.7m	登録有形文化財
賀茂泉酒造旧醸造 試験場醸造蔵	昭和4年	円形	鉄筋コンクリート造	1305mm	18.9m	銘板：昭和4年合名会社 大阪鉄筋混凝土 工務所施工 登録有形文化財
福美人酒造三号蔵	大正13年頃	方形	煉瓦造	2200mm	27.0m	登録有形文化財

\*1 建設年代は基本的に登録文化財の目録より採用した。ただし、白牡丹酒造延宝蔵、白牡丹酒造天保蔵、賀茂鶴酒造八号蔵、亀齢酒造五号蔵の煙突の建設年代は酒蔵の建設年代やインタビュー結果から推定し、亀齢酒造七号蔵の煙突は『西条の酒蔵煙突』（2012年、東広島郷土史研究会四日市町並研究会）より採用した。

\*2 煙突の横幅、高さは現地調査に加え、前掲『西条の酒蔵煙突』掲載の情報を引用した。

亀齢酒造七号蔵の煙突は、円形のレンガ造りとなっており、酒蔵通りで唯一の形式です。昭和初期に建てられたと推測されています。

現在は全ての煙突が煙突としての機能を停止していますが、観光資源としての役割は大きく、いかに維持していくかが課題となっています。



福美人酒造恵比寿蔵

白牡丹酒造延宝蔵

賀茂鶴酒造3号蔵

賀茂泉酒造

福美人酒造大黒蔵

## ○ 修景の一例

下の写真は、酒蔵通りの街角を撮影した写真に、処理を加えて電柱・電線を消去したものと、看板・のぼりを消去したり色彩を変更したりしたものです。これからの景観を形づくっていくうえでの参考となるものです。



# 地域社会の現状と課題

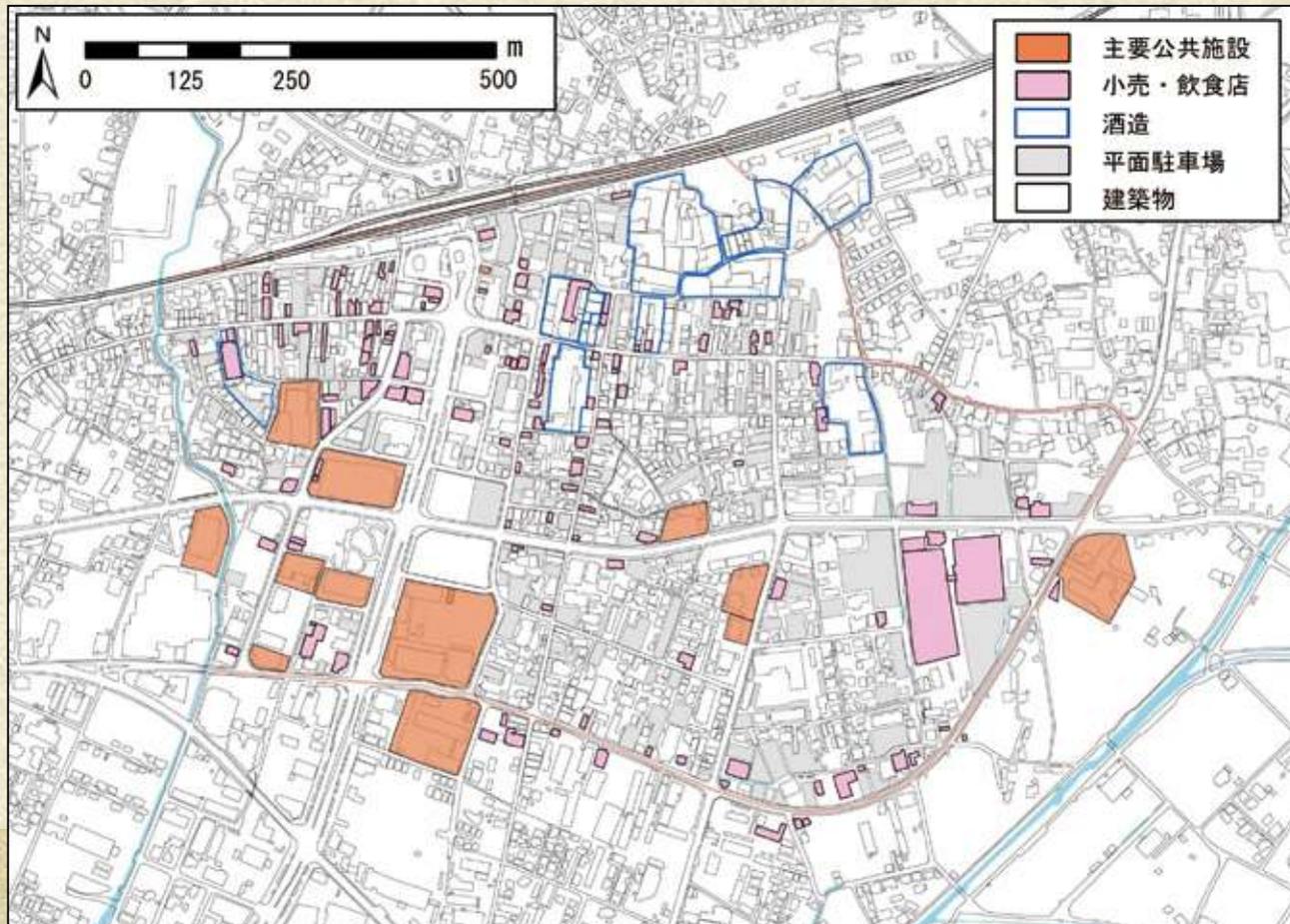
地域社会の現状と課題については、人口や世帯数の増減、産業構造、公共公益施設の配置、土地利用、交通、防災など多岐にわたりますが、ここでは、土地利用の状況と防災についてみておきます。

## 土地利用

酒蔵通りは、東広島市の中心に位置するとともに人口の増加でもその中心となっています。このため、今後も土地利用の更新が起きやすい場所と考えられています。

酒蔵が多く集まるエリアでは小規模な小売・飲食店が多く見られます。2002年から2007年の変化を見ると、本町で大幅に店舗数が増加している一方、岡町では減少している状況があり、エリア内でも状況が大きく異なることが分かります。また、このエリアの商店街の年間小売販売額の全市に対するシェアは減少しており、商業地としての求心力が下がってきていることがわかります。

このエリアには小規模な平面駐車場が数多く見られ、商店街のにぎわい低下の原因の一つと考えられています。



酒蔵地区の土地利用状況の図

## 防災の課題

### ○水害

ハザードマップで確認すると、この地区に土砂災害や浸水想定区域に指定されている場所は見られません。一方で浸水実績区域は、半尾川周辺や西条上市町などに見られます。

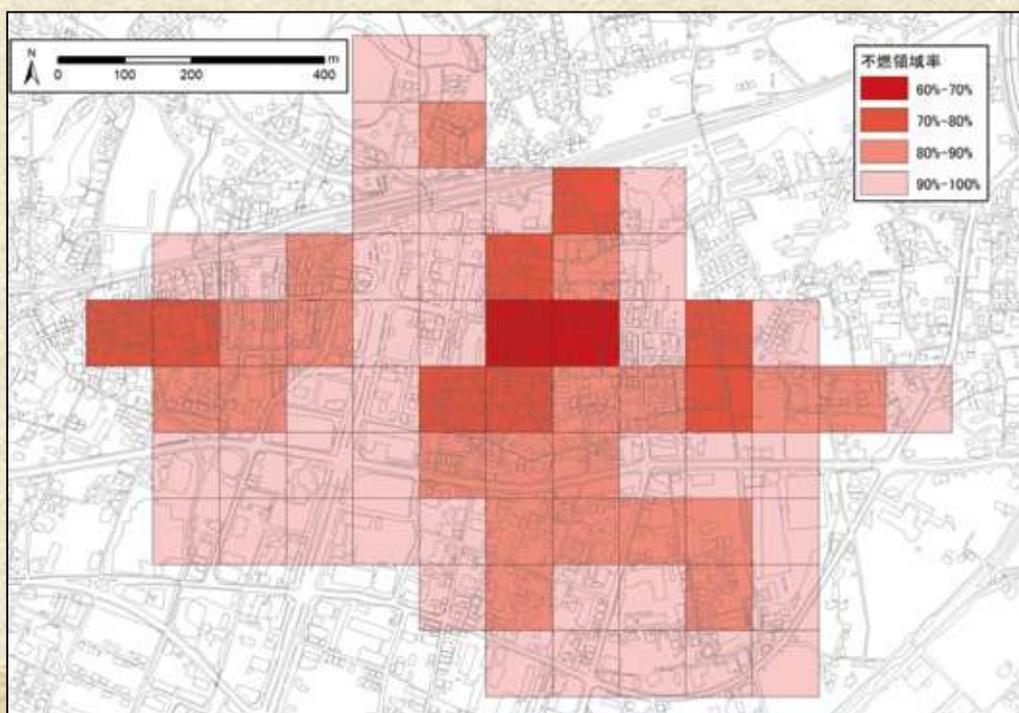
上市町周辺は、近年の水路改良によって大幅に改善されています。半尾川周辺については、平成30年7月豪雨の際にも河川が氾濫しており、リスクを抱えている地区ということが出来ます。近年、気候変動により大雨が降る危険性が増していることが指摘されており、将来の浸水に対する対策が求められています。



### ○火災

下の図は、その地区がどのくらい燃えにくいのかを100mのメッシュで示したものです。不燃領域率が60%以上であれば、火災が拡大して地区全体に広がる危険性が少ないとされています。

酒蔵通りでは、本町地区の一部に不燃領域率が低い場所が見られますが、それでも60%以上であり、この地区で火災が広がる可能性は現状では高くないといえます。



酒蔵通りとその周辺の不燃領域率(100mメッシュ)

不燃領域率(%)は、空地率+(1-空地率/100)×不燃化率で求められます。

# 町並みの保存に向けて

今回の調査で、西条酒蔵通り地区は、宿場町しゅくばまちから醸造町へと発展した町並みが良く残り、その価値がとても高いことが明らかになりました。特に、狭い範囲に酒造施設が密集して存在する場所は、全国でも西条酒蔵通りのほかにありません。日本の20世紀遺産20選の一つに選定された「西条の酒造施設群」の景観を守るためにも町並みの保全が求められます。

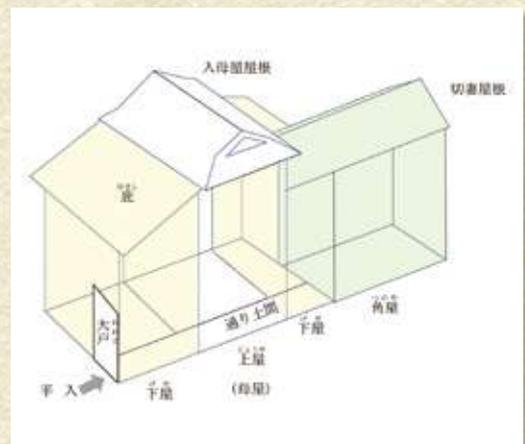


町並や景観の保全が求められるエリア（黒塗りは建造物一次調査で対象とした物件を示す）

保存が求められる範囲      ..... で囲まれた区域

## 用語集

入母屋屋根	いりもややね	上部が切妻で、その下方四周に庇を付けたもの
大壁	おおかべ	柱を塗り込めて見えなくした土壁
大戸	おおど	民家の表口などにある大きな戸
主屋	おもや	母屋ともいう。敷地内の主要な建物。また、庇、下屋などに対して建物の本体となる部分
切妻屋根	きりづまやね	屋根面が棟を挟んで両方へ傾斜している屋根
下屋	げや	建物の本体(上屋) に差し掛けた屋根とその下部
棧瓦	さんがわら	現在普通に使われている波型の瓦
真壁	しんかべ	柱と柱の間を塗っている土壁
ツシ二階	つしにかい	二階をツシと呼ばれる物置としたもの
角屋	つのや	建物本体から直角方向に突き出した附属屋
妻入り	つまいり	建物の棟に直角な面に主要な入口がある建物
通り土間	とおりどま	町家の表から裏に抜ける土間
平入り	ひらいり	建物の棟に平行な面に主要な入口がある建物



## 東広島市西条伝統的建造物群保存対策調査の概要 西条酒蔵通りの町並み

発行日／令和3年3月31日      発行／東広島市教育委員会(広島県東広島市西条栄町8-29)  
印刷／今谷印刷株式会社

※本書は、令和2年12月に発行された『西条酒蔵通り地区の町並み 東広島市西条伝統的建造物群保存対策調査報告書』を要約して作成したものです。